資料６

# 地域価値ワーキンググループについて（開催報告）

2020年４月16日

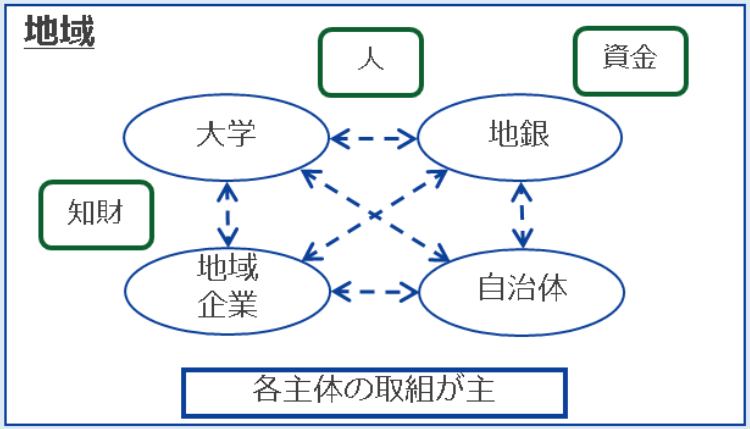
# 地域価値ワーキンググループの目的

内閣府
知的財産戦略推進事務局

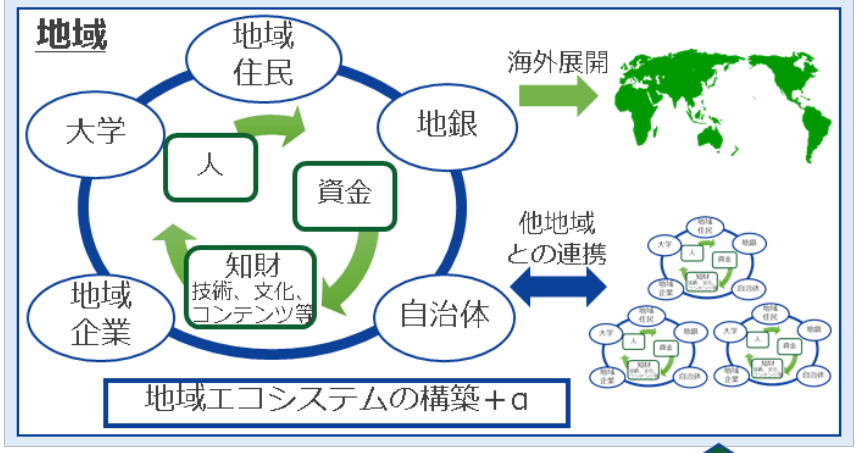
① 他地域にとって参考となる、「**地域価値エコシステム**」のベストプラクティスをとりまとめる。

② 地域価値エコシステムの構築・活性化を後押しする、**政府の取組**を提言。

## これまで




## 目指す社会像




## 目指す社会像に向けた論点(案)

- 地域の主体（大学、企業、地銀、自治体、住民等）による人材、資金、知財が循環する地域エコシステムのあり方とその構築に向けて取組むべきことは何か
- 既存人材の活用（都市から地方への配置、マッチング）に向けて取り組むべきことは何か
- 各地域大学の知財を活かすための、産学連携、ビジネスを視野に入れた知財マネジメントのあり方
- 各地域における潜在力（例：各地域に埋もれた知財）を再発見・活用するために取り組むべきことは何か
- クールジャパン戦略との連携、特区や地方創生施策の活用のあり方

# ワーキンググループで着目した地域の課題



本ワーキンググループでは、地域の課題として、次の２点に着目した。

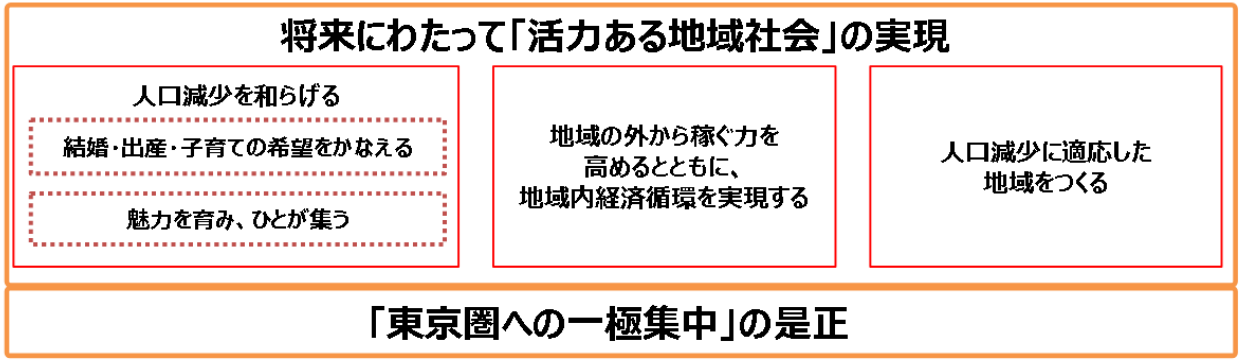
**①　人（人材）・資金の不足　　②　地域活性化活動の継続の難しさ**

＜主な意見＞

- 地理的な要因によって人材確保をするのが非常に難しい。
- プロジェクトチームを機能させるプロデューサーが重要だが、そのような知見が豊富な人の確保が難しい。
- 国の研究資金や、助成金などが入っている期間は専門家も集まり盛り上がるが、その期間中に民間資金を呼び込める状態までマネタイズすることが困難。「金の切れ目が縁の切れ目」のような事態を招く。

**＜地方創生の目指すべき将来＞**

**⇒『将来にわたって「活力ある地域社会」の実現』と、『「東京圏への一極集中」の是正』を共に目指す。**




まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）及び第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（概要）（令和元年12月20日）

# 地域価値エコシステム（人（人材）・資金の循環と呼び込み）



９名の委員・専門委員からの地域での取組からベストプラクティスを抽出し、
人（人材）・資金が循環し、地域から持続的な価値が創出される仕組みの例として、
「**地域価値エコシステム**」を描いた。

＜理想的な「地域価値エコシステム」＞

I. それぞれの地域で、地域内外に提供する**地域価値が構想**され、

II. その構想を実現すべく、それぞれの**地域で形成されてきた独自で多様な素材**や、**地域外を由来とする素材**、あるいは**両者を融合**して活用し、これを**価値に変換する仕組みを工夫する**ことで（仕組み自体も知財となり得る）、地域価値が創出され、

III. その場では、地域内の主体の協働に加えて、海外や他地域を含む地域内外のメンバーによる**共創（コ・クリエイション）が生じる**ことで、地域外の考え方・視点が取り込まれ、

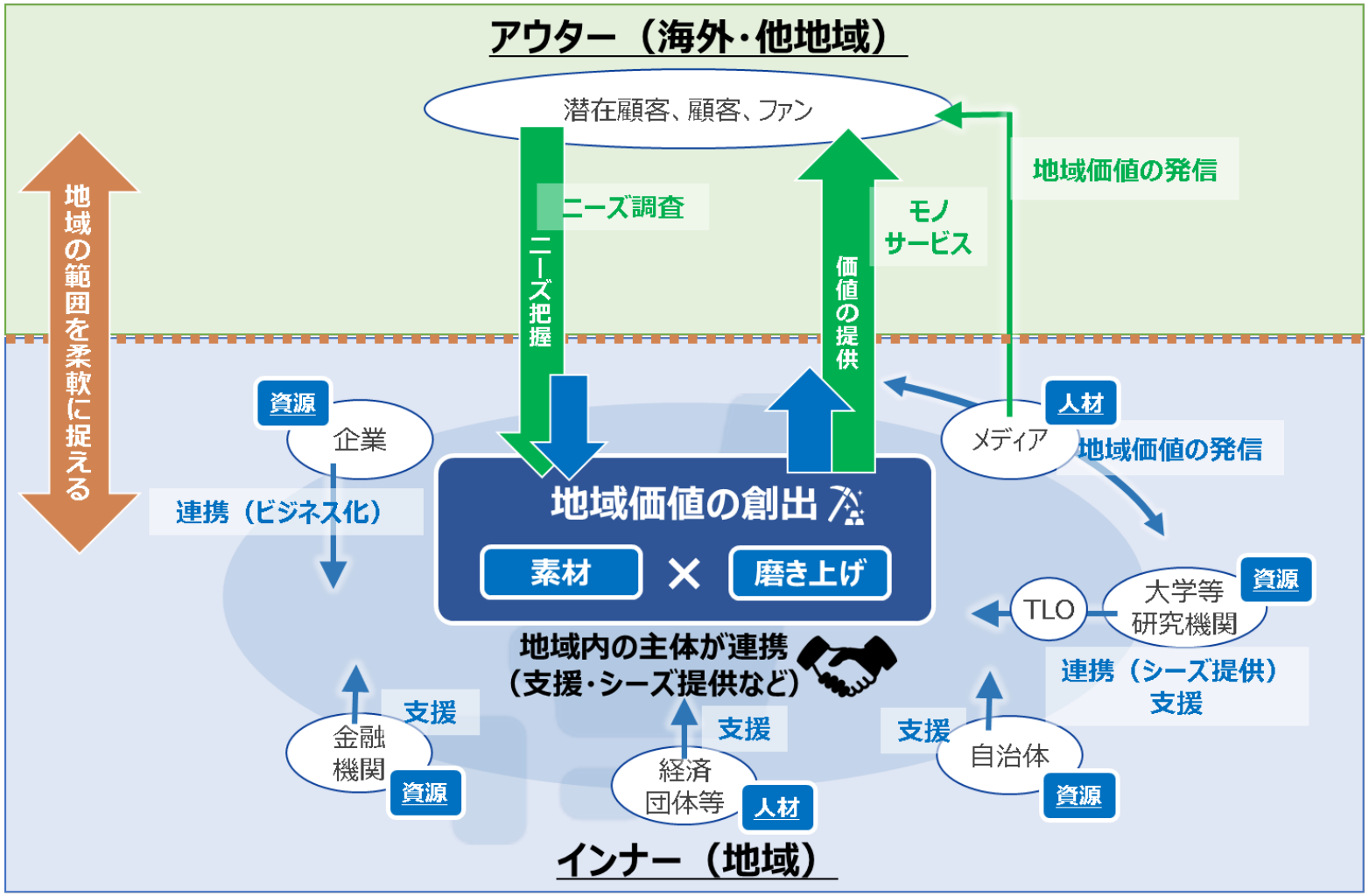
IV. 共創の場では、**持続的に新たな価値が創出**され（古い価値が見直され）ており、

V. 知財となり得る素材や、価値そのものとなった知財の活用によって、**人（人材）・資金を地域に呼び込んでいる**。

# 地域価値エコシステム　モデル① 素材の磨き上げ（脱平均）

内閣府
知的財産戦略推進事務局

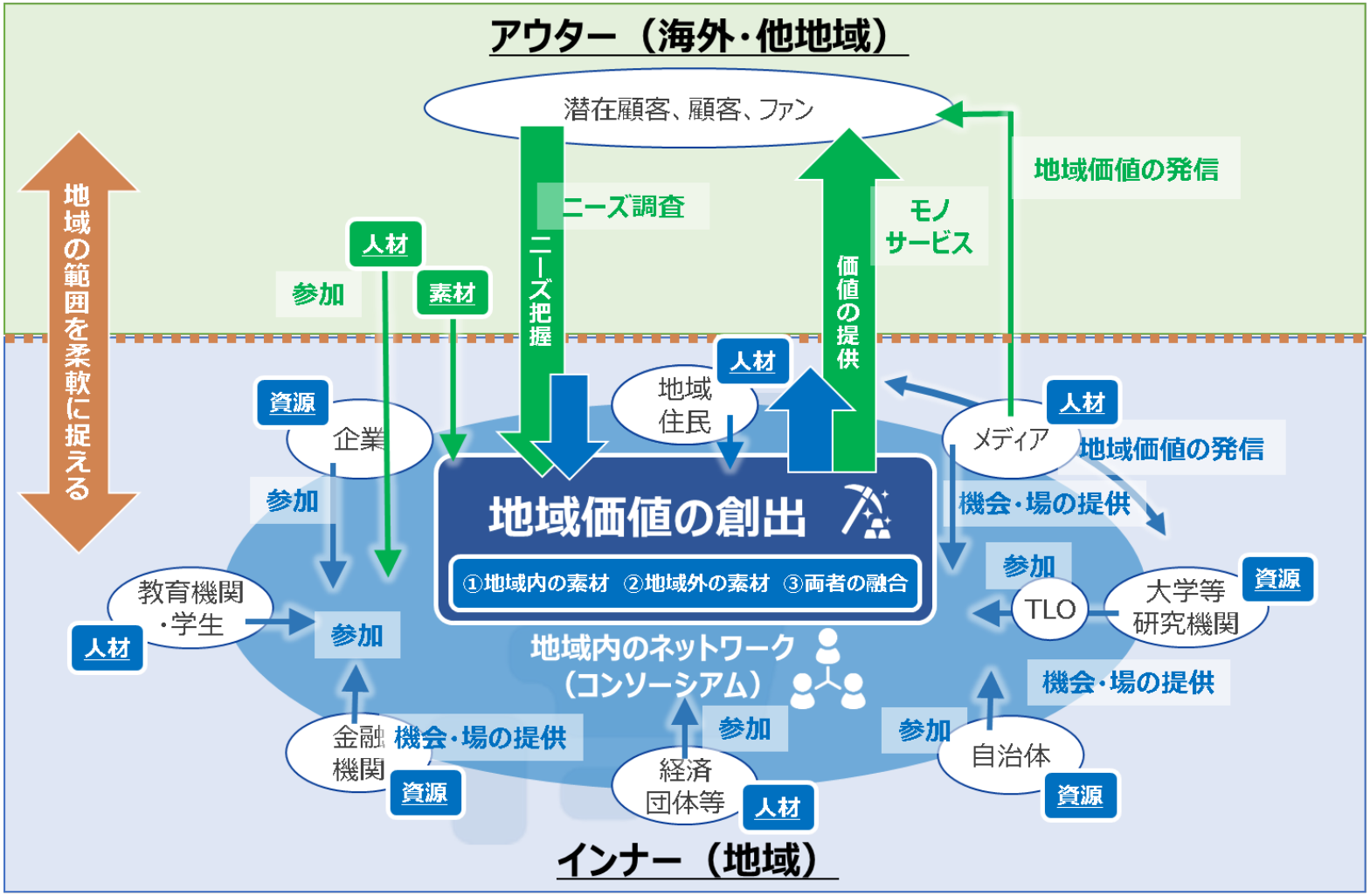
- 顧客等のニーズを調査・把握し、素材を磨き上げ、顧客等へ価値を提供する。
- 磨き上げは、地域内で「脱平均」な尖った素材を磨き上げたり、素材を「脱平均」の発想で尖らせる.



# 地域価値エコシステム　モデル② ネットワーク（融合）

内閣府
知的財産戦略推進事務局

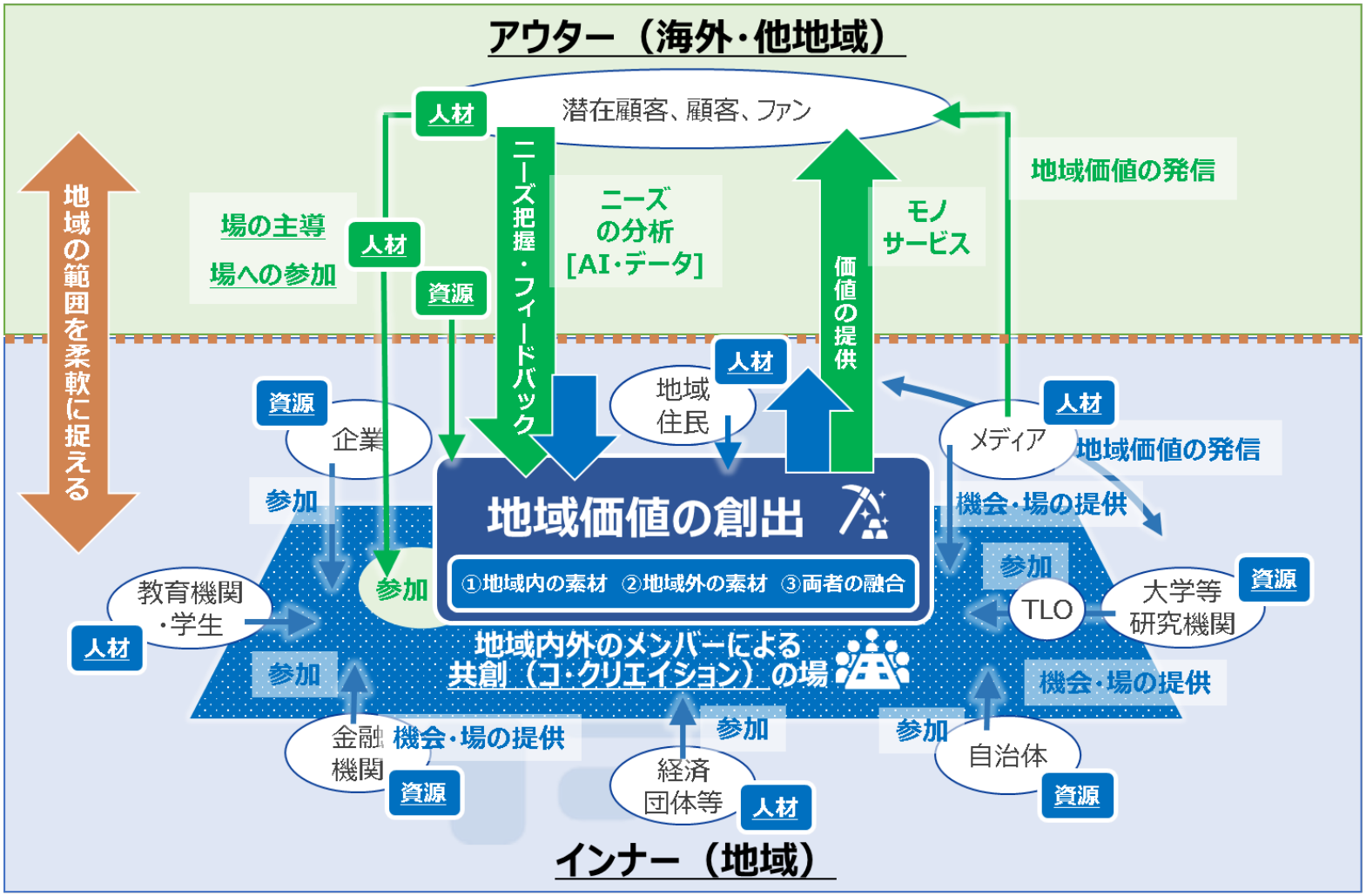
- コンソーシアムなど、地域内各主体が参加する「ネットワーク」が構築され「融合」が発生。
- 地域内だけではなく地域外の素材・人材も活用し、また両者を融合し、地域価値を創出。



# 地域価値エコシステム　モデル③ コ・クリエイション（共感）

内閣府
知的財産戦略推進事務局

- 顧客等からのフィードバックを受け、地域内外のメンバーによる共創（コ・クリエイション）がコアに。
- 地域内外から「共感」が得られる、新しい価値(見直された価値）が持続的に創出される。



# 地域価値エコシステムの構築に向けて

内閣府
知的財産戦略推進事務局

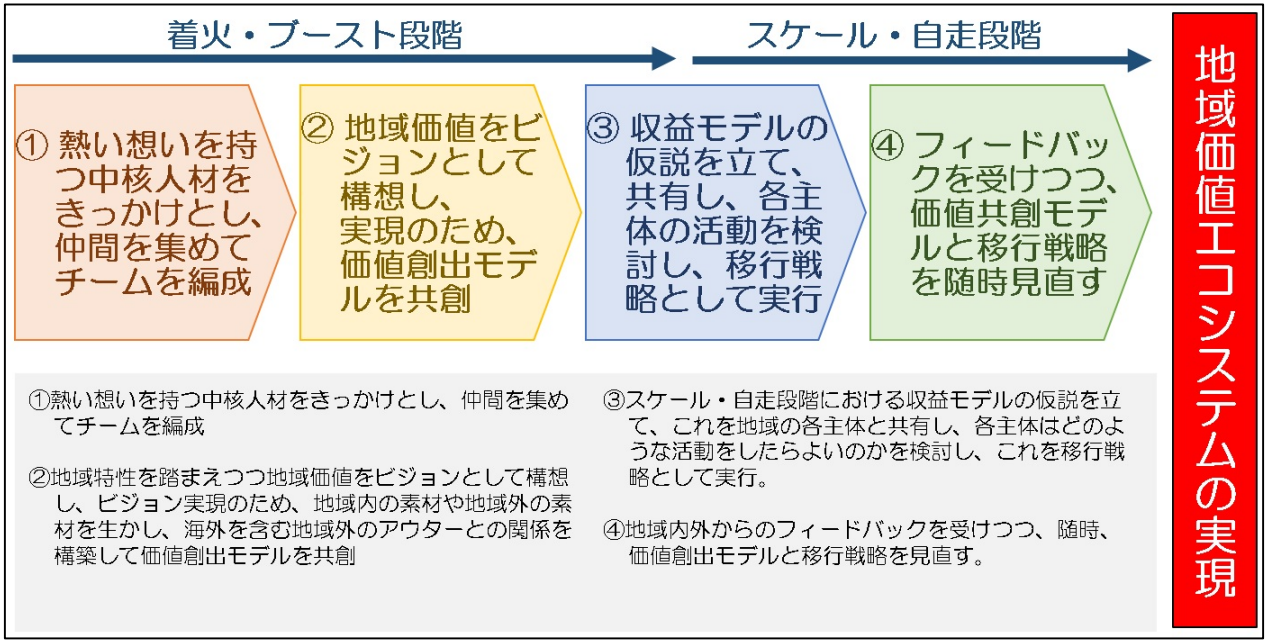
＜モデル３の構築に向けたアクション例＞

① 熱い想いを持つ中核人材をきっかけとし、仲間を集めてチームを編成。

② 地域特性を踏まえつつ地域価値をビジョンとして構想し、ビジョン実現のため、地域内の素材や地域外の素材を生かし、海外を含む地域外のアウターとの関係を構築して価値創出モデルを共創。

③ スケール・自走段階における収益モデルの仮説を立て、これを地域の各主体と共有し、各主体はどのような活動をしたらよいのかを検討し、これを移行戦略として実行。

④ 地域内外からのフィードバックを受けつつ、随時、価値創出モデルと移行戦略を見直す。



# 今後に向けた取組（案）



ワーキンググループで提案された今後の取組（案）は以下のとおり。

① 地域の特性によって、目指したい将来構想（創出する地域価値やそのビジネスモデルと資源）や、地域価値エコシステムの要素及びそれを実現するための戦略は異なる。

**→地域の課題等の把握につながるチェックリスト（自治体等が利用）を用意してはどうか。**

② 次のステップとして、どこかの地域（例えば公募）に対して、本ＷＧの委員を派遣し、本報告書の内容を実践して地域活性化に貢献するとともに、そのプロセスで新たに気付いた課題を洗い出し、その解決策を検討することで、地域価値エコシステムのあり方やアクションプランを深耕し改善することが必要。

**→有識者派遣による地域エコシステム構築支援の実証をしてはどうか。**

③ 地域価値エコシステムの実現のため、外部の専門人材、特に、本報告書で述べた視点を持ち、各主体のアクションを支援する地域プロデューサーの果たす役割は大きい。しかし、そのような地域プロデューサーは限られている。

**→OJTなどによる、地域プロデューサーの人材育成を推進してはどうか。**

# （参考）地域価値ワーキンググループ委員・専門委員

内閣府
知的財産戦略推進事務局

| 役割 | 氏名 | 所属・役職 |
|---|---|---|
| 委員長 | 渡部　俊也 | 東京大学未来ビジョン研究センター 教授 |
| 委員 | 大澤　住夫 | 株式会社信州ＴＬＯ代表取締役社長 |
| | 小城　武彦 | 株式会社日本人材機構代表取締役社長 |
| | 木村　友久 | 山口大学 大学研究推進機構知的財産センター センター長 |
| | 日下部　裕美子 | 株式会社IMPACT ACCESS　代表取締役CEO<br>東海東京フィナンシャル・ホールディングス　中部オープンイノベーションカレッジディレクター<br>広島大学オープンイノベーション事業本部　グローバル・クリエイティブ・アドバイザー |
| | 田中　仁 | 株式会社ジンズホールディングス代表取締役CEO |
| | 田中　里沙 | 事業構想大学院大学学長 |
| | 本村　陽一 | 産業技術総合研究所 人工知能研究センター<br>首席研究員兼確率モデリング研究チーム長 |
| | 山田　理恵 | 東北電子産業株式会社 代表取締役社長 |
| | 吉田　敏 | 池田泉州銀行　リレーション推進部長兼先進テクノ推進部長 |
| | 渡邉　賢一 | 株式会社XPJP 代表取締役社長 エクスペリエンス・デザイナー |
| 専門委員 | 鞍田　炎 | 福島民報社　編集局長 |
| | 川上　陸司 | 株式会社　川上アンドアソシエイツ　代表取締役<br>高山市政策顧問 |

（敬称略　所属・役職は第１回開催又は参加当時のもの）

# （参考）開催概要

内閣府
知的財産戦略推進事務局

| 回数 | 日時／場所 | 主な議題 |
|---|---|---|
| 第１回 | 令和2年1月17日（金）10:30-12:30<br>中央合同庁舎４号館共用第４特別会議室 | （１）事例から見た地域知財エコシステムの現状と課題<br>（２）意見交換 |
| 第２回 | 令和2年2月12日（水）10:00-12:00<br>中央合同庁舎４号館共用２２０会議室 | （１）ブランディング・情報発信・ニーズ分析<br>（２）地域を担う人材<br>（３）意見交換 |
| 第３回 | 令和2年3月17日（火）10：00-12：00<br>中央合同庁舎4号館 共用第３特別会議室 | （１）地域主体としての大学・研究機関<br>（２）今までの論点整理<br>（３）意見交換 |
| 第４回 | 令和２年4月13日（月）～　()<br>書面による開催（テレビ会議を併用） | （１）報告書（案）<br>（２）意見交換 |